

江田島に行く途中、家族が住む広島市の戒善寺に寄った。戒善寺は地獄極楽の絵で有名な寺だった。作者は知らないが、年に一回開帳した。私も

# 私の履歴書

司 憲 庵 久 栄  
司 憲 庵 久 栄

①

れない。翌日、妹の昌子が見送ってくれた。それが妹との最後の別れとなった。

江田島には遅れて到着してしまっただけで、同期全員が整列しているところにハワイから持ち帰ったトランクを掲げ、敬礼して「栄久庵憲司生徒、ただいま到着しました」と大声で言った。同期が集まると、「遅れてきたくせに、東京の

## 前日の晩餐 父が嗚咽

体操教官、今でも心の英雄

坊っちゃん面して来た」と今でも冷やかされる。

この時期になると、我々の期の教育は江田島ではなく、長崎の針尾分校で行われた。いまオランダの街並みで有名なハウステンボスがある場所で、後に私のデザインで記念碑が建った。一分隊が四十八人、十二分隊集まって部になる。それが七部あり、私は三部の第七分隊に所属した。

朝起きると、海に向かって号令をかける発声訓練。その後、上半身裸で海軍体操をする。三千八百人が寸分の違ひなくきちんと並び、全員が同じ動作をするから実に壮観。

「レディー・ビギン」などと全部、英語だ。体操は海軍生徒必須の訓練だった。指導教官は聲をたくわえた堀内豊秋大佐である。

開戦当時、セレベス島メナドの落下傘降下部隊の司令で、デンマーク体操を海軍に導入した。柔らく猫のように敏捷でバランスのある身体をつくり上げることが目標だ。

その一つが空中転回で、踏み切る時に今までにない勇気がいる。大佐はにこやかにユ一モアも交えながら、忍耐強く指導してくれた。怖さが少しも減り、空中の姿勢が見えるようになる。全員ができるようになった。大佐は戦後、メナドで行われた軍事裁判で死刑になったが、今でも海軍魂の精髓を教わった同期会員の心の英雄である。

敵ともなった。食事の前には、モールス信号の聴き取りテストをやらされた。

クラスに川口正純というモールス信号の名手がいた。優秀な男で戦後、三菱銀行に入り、欧州三菱の頭取になった。後に、私が国際デザイン組織の会議で欧州にいくと、彼の



筆者がデザインした海軍兵学校針尾分校の碑 (1992年9月建立)

家で御馳走になったものだ。四月に初めて第一種軍装(紺)による外出許可が出た。階段の踊り場にある鏡の前でぱっと見

けれど食べ盛りですぐ食べ過ぎてしまったので、箸をわざとわざと左手にもち、ご飯粒を一粒ずつ食べた記憶がある。食堂で食事をしていると、背後でコールドクリームのおいがする。女子挺身隊の人が「何か細かいものはありませんか」とたずねる。我々より少し年上だが、新たな性の刺

この時、絵を見たが、原爆で燃えてしまった。極楽の絵は今でも自分のデザインの二つの理想像になっている。

江田島に出発する前日の晩餐は家族全員でとった。普段あまり表情を見せない父親が嗚咽した。せがれにもう二度と逢えないと願ったのかもし